

至
大森台駅

塩田町 誉田町線

学園前駅

京成千原線

歩いてみよう!



ふれあい公園

加曽利貝塚PR大使
かそりーぬ

大百池公園

大百池

千原線



埋蔵文化財調査センター

千葉明德学園



大覚寺山古墳

千葉市立生浜
東小学校



小弓城跡



供養塚



八劔神社

学園前駅周辺の文化財を巡る
—現代に継承される信仰と伝統—

文

文

文

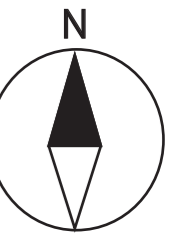
理容院

南生実
第2公園

介護施設

コンビニ

文化財マップ 案内図



- ① 白いコンテナが目印です。
- ① 左折して細い路地を下って行きます。



- ② 小湊バス「南生実台」バス停が目印です。
- ② バス停を過ぎてすぐ左折します。



- ③ カーブミラーが目印です。
- ③ 右折すると小弓城跡へ向かいます。
- ③ 直進すると供養塚、八剣神社へ向かいます。



- ④ 坂道を下っていきます。
- ④ 右手側に供養塚、左手側に八剣神社があります。



- ⑤ カーブミラーが目印です。
- ⑤ 右折します。



- ⑥ 直進します。
- ⑥ 京成千原線の線路が見えたら線路沿いに歩いていきます。



- ⑦ 陸橋をくぐって左を見ると階段があります。
- ⑦ 上ると駅へ着きます。



★おすすめコース(所要時間約2時間)

徒歩20分

やつるぎじんじゃ
八劔神社 見学目安 15分

徒歩10分

でわさんざんこう くようづか
出羽三山講の供養塚 見学目安 5分

徒歩15分

京成線 学園前

まいぞうぶんかざいちょうさ
千葉市埋蔵文化財調査センター
見学目安 20分

本施設では、発掘調査、出土資料の整理及び学校への普及事業等を通し、市内遺跡の保存や活用を行っています。展示室では、土器や石器などの遺物や発掘調査記録を常時公開しています(観覧料は無料)。開館日は、土日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)を除く、平日午前9時～午後5時15分です。

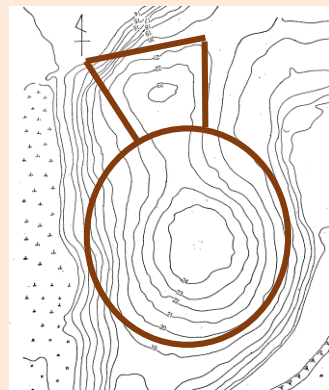


徒歩5分

だいかくじやまこふん
大覚寺山古墳 見学目安 10分

昭和45年に発見された全長約63mの前方後円墳です。市内では最大規模を誇り、舌状台地の先端部を加工して墳丘を造営しているのが特徴です。

発掘調査は実施されておらず定かではありませんが、研究の結果、築造年代は古墳時代中期前半(5世紀前半)と推定されています。この時期は、南関東に古墳が出現する時期で、東国の古代社会を研究するうえで重要な古墳です。このような遺跡の重要性から、昭和46年に千葉県指定史跡に登録されました。



八劔神社は、社伝によると日本武尊が東征の際に当地に起こっていた国境争いを平定し、改めて国境を定めたことに感謝して、土地の人々が東国鎮護征夷神として祀ったのが始めとされています。

祭神は日本武尊を主神とし、天照大神と大己貴命を合祀しています。また、八劔神社には神楽舞が伝わっており、昭和38年に千葉市指定文化財に指定されています。



神楽については次頁へ!

徒歩15分

出羽三山信仰は江戸時代中期以降、羽黒修験の山伏によって関東地方にも広められました。

南生実町の出羽三山講では、年1回、8月のお盆過ぎに、家内安全や交通安全を祈願し、梵天をこの供養塚に立てる行事を行っています。

詳しくは最終頁へ



徒歩5分

おゆみじょうあと
小弓城跡 見学目安 5分

おゆみ地区には「生実城」と「小弓城」の2つの城があります。史料上、「生実城」と「小弓城」の名称が明確に区別されていなかったため、詳細ははっきりとしていませんが、小弓城は生実城の支城として築かれたと推定されています。

ゆかりのある人物としては「小弓公方」と称された足利義明がいます。

かつては大規模な堀や土塁も残っていましたが、現在は埋め戻され、その姿を見ることはできません。周辺には「城山下」「古城」「東堀」などの字名が残っています。



八剱神社の神楽

そもそも神楽とは？

神楽は人間の生命力の強化・復活を図るため、鎮魂、清め、祓いをする祭祀であり芸能です。また、死霊を祀り鎮め、浄化させるためにも行われます。定式は、神座かむくらを設けて神々を迎え、祈禱きとうや歌舞音楽、酒宴をした後に、神送りをします。

民間の神楽の基本形態は「採物神楽とりものかぐら」、「湯立神楽ゆだてかぐら」、「巫女神楽みこかぐら」、「獅子神楽ししかぐら」の四種類に分類されます。実際には、それぞれの要素が混在している場合が多いです。

今日の神楽は、鎮魂の祈禱よりも余興的、娯楽的な芸能に主体が移ったものが多いです。

八剱神社神楽の起源

社伝によると、享保元年(1716)、社殿の再建遷宮式が挙行される際に、上総国一ノ宮玉前神社より神楽師が訪れ、神楽を奉納したといわれています。

また、上総一ノ宮神楽連は享保元年より前の元号、正徳年中にも、一度神楽を行ったという記録が残っています。



神楽の特色

舞う場所は、拝殿とは別に神楽殿が設けられており、能舞台を模した三方吹き抜けになっています。無言劇の形態をとり、老人面、神様面、おかめ面、ひょっとこ面、狐面等の仮面を用います。以上の特徴から、江戸神楽の系統に属するものと思われています。

『正徳年中於八劔社両日御神楽執行次第』によると**36座(演目)**の神楽が奉納されていましたが、座数と演目内容・呼称は時代によって変化しています。現在は、**12座**からなる神楽で「十二座神楽」と言われています。

神楽書

江戸時代後期の本社神主吉野重泰の記した『神楽書』、『神前神楽行事』、『神楽次第』、『御神楽抄』の4冊の神楽書が伝えられています。

神楽とともに千葉市文化財に指定されています。

現在の神楽

現在の祭礼は2年に一度、7月27日に行なわれており、八劔神社の神楽殿にて公開されています。

神楽を行わない年には神輿にあわせてお囃子を実施しています。



南生実町の出羽三山講

さんざんこう

出羽三山とは？

山形県庄内平野の南西部に所在する月山、湯殿山、羽黒山を指します。

三山登拝とはいの信仰は15～16世紀ごろから人々の関心と呼び、近世を通じて東日本に広まりました。

現在の三山講

現在では年1回、8月の第三日曜日に行っています。廣照寺で梵天ぼんてんを作り、塚に持っていき祈願を行い、寺に戻り直会なおらいをします。昔は五穀豊穰を祈願していましたが、最近では家内安全や交通安全を祈願しています。

塚は、かつては村のはずれにありましたが、おゆみ野の宅地造成の影響で現在の場所に移転されました。

供養塚とは？

梵天と呼ばれる三山登拝記念碑を納めて祀る塚のことです。三山参りを果たした人を行人ということから行人塚とも呼ばれています。

梵天とは？

三山信仰の標識となる、紙と竹で作られるものです。地域ごとに形や立て方が異なります。



